

令和元年 東日本台風(台風第19号)

- ・災害概況等報告書
- ・対応課題抽出調査結果

桐生市

令和2年3月

目次

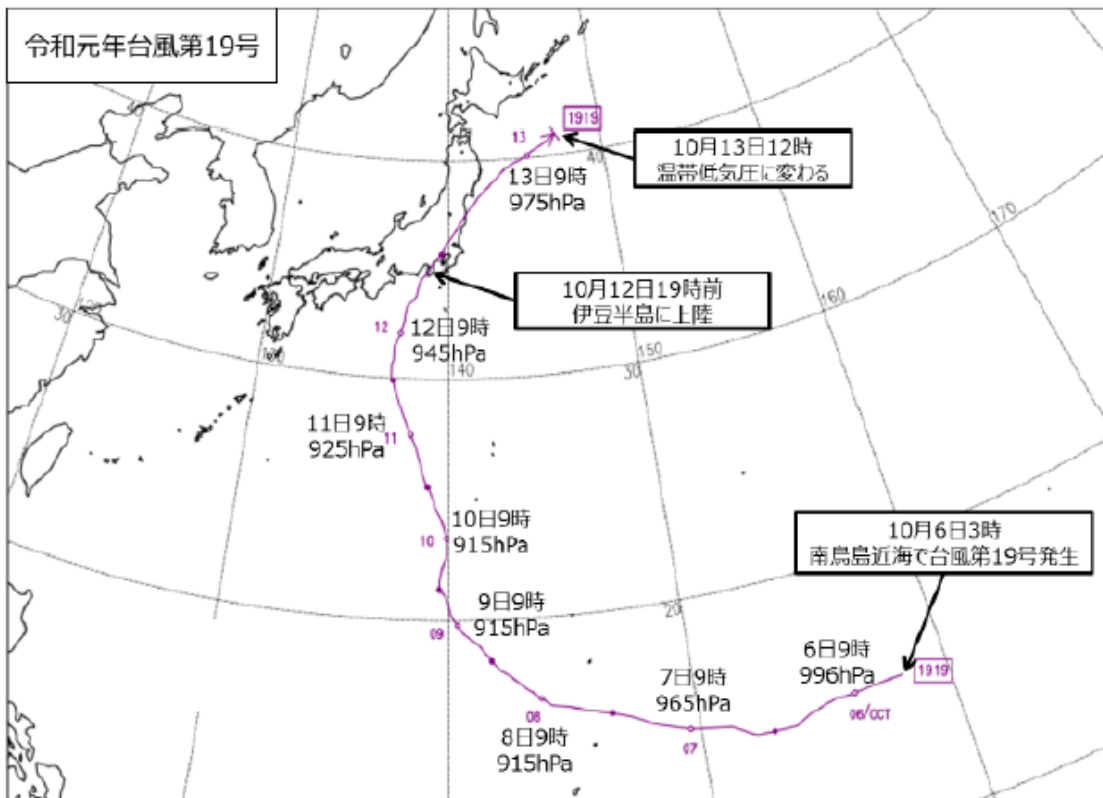
| | |
|---|----|
| 1. 気象・大雨の概要 | 1 |
| 2. 気象警報等の発表状況 | 2 |
| 3. 雨量状況 | 2 |
| 4. 河川の水位状況 | 3 |
| 5. 市の災害対策体制 | 4 |
| 6. 避難情報発令状況 | 6 |
| 7. 避難状況 | 7 |
| 8. 被害状況 | 8 |
| 9. 災害復旧支援 | 9 |
| 10. 各団体・組織等の代表者を対象とした 対応課題抽出調査結果 | 10 |

1. 気象・大雨の概要

令和元年10月12日(土)から13日(日)にかけて大雨や強風をもたらした令和元年東日本台風(台風第19号)では、桐生地域に初めて大雨特別警報が発表され、土砂災害の恐れが高まるとともに、桐生川は氾濫危険水位を一時超過した。さらに、桐生市では、現行制度となって初めて、全人口の6割を超える約7万人に避難勧告が出され、自主避難も含めて最大で約2千人が市の開設した避難所に避難した。人的被害はなかったものの、山間部を中心に土砂流出や冠水で道路の通行止めが相次ぐなどの被害が出た。

今回の台風で桐生市(元宿町)では12日の24時間降水量232.0ミリを記録。10月1カ月分の平年値(130.9ミリ)の倍近い雨が1日で降った。

さらに同日は最大瞬間風速22.2メートルの強風にも見舞われた。



2. 気象警報等の発表状況

| 日時 | 気象警報等 |
|--------|--|
| 10月12日 | 2:14 大雨注意報、強風注意報 発表 4:21 洪水注意報 発表 9:10 大雨警報 発表 14:57 洪水警報、暴風警報 発表 16:12 土砂災害警戒情報 発表 18:05 大雨特別警報 発表 |
| 10月13日 | 0:10 大雨特別警報 解除 (大雨警報に切替え) 2:03 暴風警報解除 2:50 土砂災害警戒情報 解除 5:15 大雨警報 解除 (大雨注意報に切替え) 11:25 洪水警報 解除 |
| 10月14日 | 1:37 大雨注意報 解除 |

資料：前橋地方気象台が発表（※土砂災害警戒情報は前橋地方気象台と県が共同で発表）

3. 雨量状況(10月11日12時から 10月12日24時まで)

| 観測所 | 期間内総雨量 | 最大時間雨量 |
|---------|--------|------------------|
| 桐生（小梅町） | 235mm | 32mm（12日 18時00分） |
| 桐生川ダム | 285mm | 39mm（12日 18時00分） |
| 津久原 | 360mm | 46mm（12日 18時00分） |
| 山田川 | 313mm | 41mm（12日 18時00分） |
| 鳥居川 | 269mm | 34mm（12日 18時00分） |
| 楡沢 | 253mm | 30mm（12日 18時00分） |
| 花見ヶ原 | 208mm | 26mm（12日 18時00分） |
| 黒保根（水沼） | 255mm | 33mm（12日 18時00分） |
| 桐生（元宿町） | 240mm | 31mm（12日 18時00分） |

資料：川の防災情報（市町村向け）

4. 河川の水況

(1) 上久方(梅田町1丁目観音橋)

※水防団待機水位：2. 20m、氾濫注意水位：3. 10m

避難判断水位：4. 20m、氾濫危険水位：4. 58m

| 日時 | | 水位 |
|-----------|--------|--------------------|
| 10月11日(金) | 9時00分 | 1.35m(平常時水位) |
| 10月12日(土) | 15時40分 | 2.39m(水防団待機水位を上回る) |
| | 17時30分 | 3.20m(氾濫注意水位を上回る) |
| | 19時50分 | 4.28m(避難判断水位を上回る) |
| | 21時10分 | 4.59m(氾濫危険水位を上回る) |
| | 21時40分 | 4.67m(最高水位) |
| 10月13日(日) | 23時00分 | 2.16m(水防団待機水位を下回る) |

資料：川の防災情報(市町村向け)

(2) 広見橋(東5丁目広見橋)

※水防団待機水位：1. 70m、氾濫注意水位：2. 00m

避難判断水位：3. 00m、氾濫危険水位：3. 70m

| 日時 | | 水位 |
|-----------|--------|--------------------|
| 10月11日(金) | 9時00分 | -0.35m(平常時水位) |
| 10月12日(土) | 17時40分 | 1.73m(水防団待機水位を上回る) |
| | 18時00分 | 2.07m(氾濫注意水位を上回る) |
| | 20時30分 | 3.01m(避難判断水位を上回る) |
| | 22時00分 | 3.10m(最高水位) |
| 10月13日(日) | 12時00分 | 1.60m(水防団待機水位を下回る) |

資料：川の防災情報(市町村向け)

(3) 高津戸(大間々町大間々高津戸橋)

※水防団待機水位：2. 20m、氾濫注意水位：3. 30m

避難判断水位：4. 40m、氾濫危険水位：5. 00m

| 日時 | | 水位 |
|-----------|--------|--------------------|
| 10月11日(金) | 9時00分 | -0.15m(平常時水位) |
| 10月12日(土) | 15時20分 | 2.39m(水防団待機水位を上回る) |
| | 17時20分 | 3.33m(氾濫注意水位を上回る) |
| | 23時00分 | 4.29m(最高水位) |
| 10月13日(日) | 6時00分 | 2.16m(水防団待機水位を下回る) |

資料：川の防災情報(市町村向け)

5. 市の災害対策体制

| 体制 | 設置日時 | 解除日時 |
|-----------|------------------|------------------|
| 桐生市災害警戒本部 | 10月11日(金) 11時00分 | 10月12日(土) 13時30分 |
| 桐生市災害対策本部 | 10月12日(土) 13時30分 | 10月13日(日) 11時30分 |
| 警戒配備 | 10月11日(金) 11時00分 | 10月13日(土) 11時30分 |
| 第1号配備 | 10月12日(土) 13時00分 | 10月12日(土) 21時10分 |
| 第3号配備 | 10月12日(土) 21時10分 | 10月13日(日) 0時00分 |

●災害対策本部会議（桐生市役所3階 特別会議室）

出席者：市長以下全本部員、広報課長、秘書係長、防災係長、他

| | 実施時刻 | 会議内容 |
|-----|------------------|--|
| 第1回 | 10月12日(土) 15時30分 | ○ 台風第19号の状況（総雨量、進路予想等） ○ 被害状況 ・ 人的被害 |
| 第2回 | 10月12日(土) 20時00分 | ・ 住家被害 ・ ライフラインの状況 ・ その他の被害 |
| 第3回 | 10月12日(土) 23時30分 | ○ 現在までの対応状況及び今後の予定等 ・ 避難所開設状況、避難者数 ・ 関係機関等との連携 |
| 第4回 | 10月13日(日) 11時00分 | ○ 各対策部からの連絡事項、情報共有事項 ○ 副市長指示 ○ 市長指示 |

●災害対応従事職員数 [令和元年10月11日(金)～10月15日(火)]

| 災害従事内容 | 従事職員数 |
|------------|-------------|
| 庁舎対応職員 | 74人 |
| 避難所運営職員 | 171人 |
| 避難所へ保健師派遣 | 17人 |
| 避難所への物資搬送 | 9人 |
| 現場確認、対応、巡視 | 139人 |
| 合計 | 410人 |

[参考]

● 配備計画（桐生市地域防災計画から抜粋）

災害対策本部設置前の警戒配備

| 区分 | 配備基準 | 配備体制 |
|------|---|---|
| 警戒配備 | 大雨、洪水等の警報が発表され、災害が発生するおそれがあると市長が認めた場合。 その他必要により、市長が指令したとき。 | 各部主管課災害関係各課の職員で、情報活動が円滑に行える体制にあり、且つ、災害対策本部設置による1号動員発令に支障のない体制とする。 (消防職員を除く全職員の10%程度) |

上記の場合、必要に応じて副市長を本部長、関係部局の長などを本部員とする災害警戒本部を設置するものとする。

| 区分 | 配備基準 | 配備体制 |
|-------|---|---|
| 第1号配備 | 大雨、洪水等の警報が発表され、災害の発生が予想される場合 | 災害に対する警戒態勢をとるとともに小災害が発生した場合に対処し得る人員を配備する。 (消防職員を除く全職員の25%程度) |
| 第2号配備 | 局地的な災害が発生し、又は発生するおそれがある場合。 | 災害発生とともに直ちに災害応急活動を開始できる体制とする。 (消防職員を除く全職員の50%程度) |
| 第3号配備 | 全市域にわたる災害が発生し、又は発生するおそれがある場合並びに全域でなくても被害が特に甚大と予想される場合 | 動員可能な全職員をもってあたるもので完全な非常体制とする。(全職員) |

6. 避難情報発令状況

| 日時 | 避難情報 | |
|---------------------|-------------------|---|
| 10月12日(土) 14時00分 | 『避難準備・高齢者等避難開始』発表 | |
| | 事由 | 土砂災害危険 |
| | 対象地区 | 堤町1～3丁目、小曾根町、宮本町1・3・4丁目、西久方町1・2丁目、天神町2・3丁目、平井町、梅田町1～5丁目、広沢町3～7丁目、相生町2～4丁目、川内町1～5丁目、菱町1～5丁目、新里町赤城山・板橋・関・高泉・奥沢、黒保根町全域 |
| | 対象世帯等 | 23,009世帯/52,494人 |
| 10月12日(土) 18時10分 | 『避難勧告』発表 | |
| | 事由 | 土砂災害危険 |
| | 対象地区 | 堤町1～3丁目、小曾根町、宮本町1・3・4丁目、西久方町1・2丁目、天神町2・3丁目、平井町、梅田町1～5丁目、広沢町3～7丁目、相生町2～4丁目、川内町1～5丁目、菱町1～5丁目、新里町赤城山・板橋・関・高泉・奥沢、黒保根町全域 |
| | 対象世帯数 | 23,009世帯/52,494人 |
| 10月12日(土) 21時20分 | 『避難勧告』発表 | |
| | 事由 | 避難判断水位到達(桐生川) |
| | 対象地区 | 梅田町1・2丁目、天神町1～3丁目、東久方1～3丁目、東1～7丁目、仲町1～3丁目、浜松町1～2丁目、新宿1～3丁目、境野町1～7丁目、菱町1・3～5丁目 |
| | 対象世帯数 | 12,731世帯/27,989人 |
| 合計(重複を除く) | | 31,426世帯/70,945人 |

7. 避難状況

| | 避難所 | 避難者数 | 開設日時 |
|----|-------------|-----------------------------|---|
| 1 | 昭和公民館 | 6世帯 9名 | 随時開設 (自主避難所) ※10月12日(土)14時00分 『避難準備・高齢者等避難開始』発令に伴い、指定避難所へ移行。 |
| 2 | 南公民館 | 12世帯 26名 | |
| 3 | 東公民館 | 17世帯 29名 | |
| 4 | 西公民館 | 28世帯 53名 | |
| 5 | 北公民館 | 58世帯 113名 | |
| 6 | 境野公民館 | 16世帯 47名 | |
| 7 | 桜木公民館 | 13世帯 25名 | |
| 8 | 広沢公民館 | 8世帯 17名 | |
| 9 | 梅田公民館 | 2世帯 7名 | |
| 10 | 相生公民館 | 32世帯 70名 | |
| 11 | 菱公民館 | 28世帯 60名 | |
| 12 | 桜木西公民館 | 9世帯 18名 | |
| 13 | 新里支所 | 15世帯 36名 | |
| 14 | 黒保根支所 | 0世帯 0名 | |
| 15 | 北小学校 | 42世帯 107名 | 10月12日(土)14時00分 『避難準備・高齢者等避難開始』発令に伴い開設。 |
| 16 | 広沢中学校 | 37世帯 88名 | |
| 17 | 梅田南小学校 | 52世帯 171名 | |
| 18 | 川内中学校 | 55世帯 145名 | |
| 19 | 菱小学校 | 22世帯 49名 | |
| 20 | 新里北小学校 | 4世帯 13名 | |
| 21 | 黒保根交流促進センター | 19世帯 42名 | |
| 22 | 総合福祉センター | 36世帯 100名 | 10月12日(土)17時00分 (要配慮者・福祉施設用として開設) |
| 23 | 黒保根小学校 | 世帯数不明 76名 (福祉施設からの避難のため) | |
| 24 | 南小学校 校舎 | 56世帯 136名 | 10月12日(土)21時20分 避難勧告発令(河川の氾濫危険)に伴い開設。 |
| 25 | 東小学校 校舎 | 90世帯 273名 | |
| 26 | 境野小学校 校舎 | 118世帯 344名 | |
| 27 | 西小学校 | 1世帯 3名 | |
| 28 | 相生小学校 | 0世帯 0名 | |
| | 合計 | 776世帯 2057名 | 時間帯最大避難者数 12日 23時00分 759世帯 2,014名 |

※10月13日(日)9時00分 全避難者帰宅に伴い、全ての避難所を閉鎖。

8. 被害状況

被害状況一覧

| 被害の種別 | 12月18日時点 |
|--|----------|
| ○住家 半壊 ・川内町四丁目 | 1件 |
| ○住家 一部損壊 ・東七丁目 ・菱町二丁目 (2件) ・梅田三丁目 | 4件 |
| ○床下浸水 ・宮前町三丁目 ・天神町三丁目 ・梅田町三丁目 | 3件 |
| ○土砂流出 | 20件 |
| ○土砂崩れ | 10件 |
| ○河床のえぐれ | 2件 |
| ○護岸の崩れ | 17件 |
| ○道路の陥没、舗装の剥がれ、 石積の崩れ、路肩の崩れ | 4件 |
| ○林道被害 | 11件 |
| ○その他 (水路・側溝のつまり、 倒木、冠水など) | 106件 |
| 合計 | 178件 |

9. 災害復旧支援

(1) 両毛6市の相互応援協定に基づく支援

| 区分 | 期間 | 備考 |
|--|--|----------------------------------|
| 佐野市内におけるごみの分別と燃えるごみの積込作業 | 令和元年 10月22日(火) 10月26日(土) 10月27日(日) 11月3日(日) | 派遣従事者数 (1日あたり15人×4日) 計 60人 |
| 佐野市内の工場被害調査 (工場内での聞き取り調査) | 令和元年 10月23日(水)から 11月12日(火)まで (土・日・祝日を除く) | 派遣従事者数 (1日あたり2人×14日) 計 28人 |
| 災害廃棄物の収集運搬支援 (佐野市) | 令和元年 10月30日(水)から 11月15日(金)まで (土・日・祝日を除く) | 派遣従事者数 (1日あたり2人×12日) 計 24人 |
| 災害廃棄物の受入(佐野市) | 令和元年 10月28日(月)から 11月22日(木)まで (土・日・祝日を除く) | |
| 災害廃棄物の受入(足利市) | 令和元年 11月11日(月)から 令和2年 3月31日(火)まで (土・日・祝日を除く) | |
| 災害復旧事業における査定 設計書、実施設計書の作成 及び現場測量等(佐野市) | 令和元年 12月2日(月)から 12月27日(金)まで (土・日・祝日を除く) | 派遣従事者数 1人 (同一職員が20日間派遣) |
| 計 50日(延べ日数) | | 計 132人(延べ人数) |

10. 各団体・組織等の代表者を対象とした対応課題抽出調査結果

令和元年東日本台風（台風第19号）の状況を踏まえ、各団体・組織の代表の方々を対象に課題抽出調査を実施いたしました。

なお、各団体・組織の代表の方々には、個人としての意見ではなく、組織・団体の皆様のご意見を代表して回答していただいております。

・調査実施期間：令和元年11月11日（月）～令和元年12月12日（木）

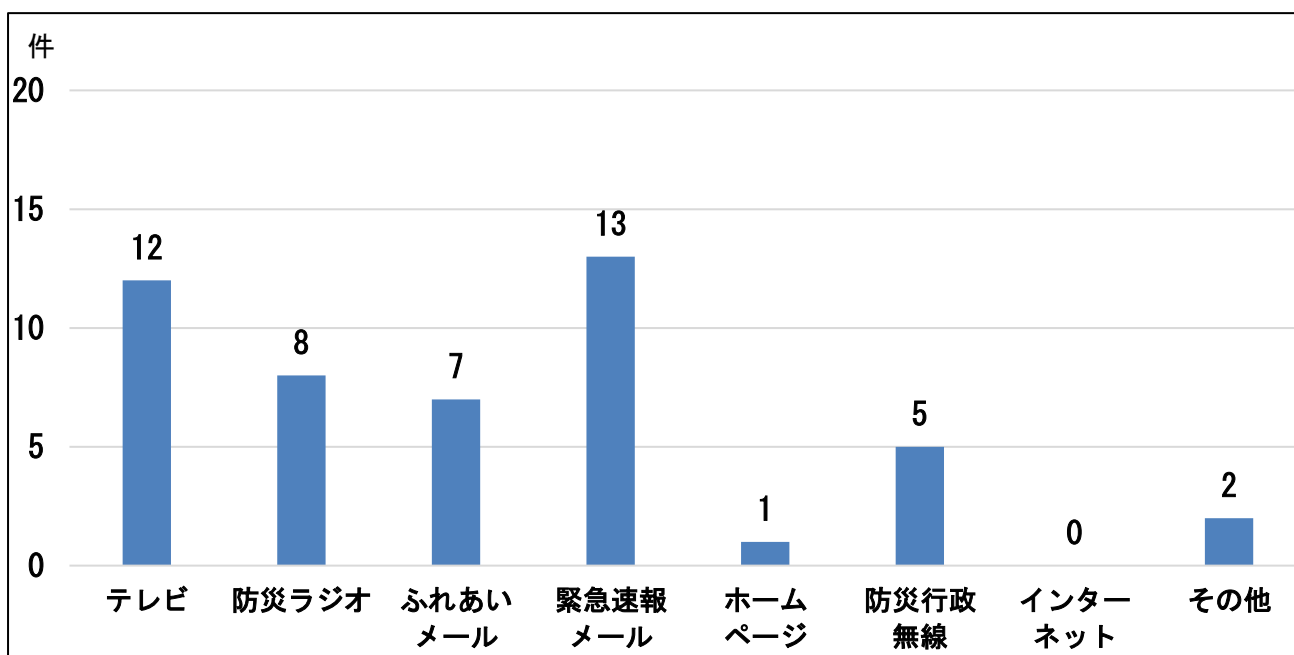
・対象者：

| | |
|-----------------|---------------|
| ①各区長、自主防災組織の代表者 | 24名（回収率：100%） |
| ②民生児童委員 各地区会長 | 19名（回収率：100%） |
| ③消防団 団本部、各分団長 | 36名（回収率：81%） |

計 79名（回収率：91%：72名回答）

●各区长、自主防災組織代表者への質問に対する回答

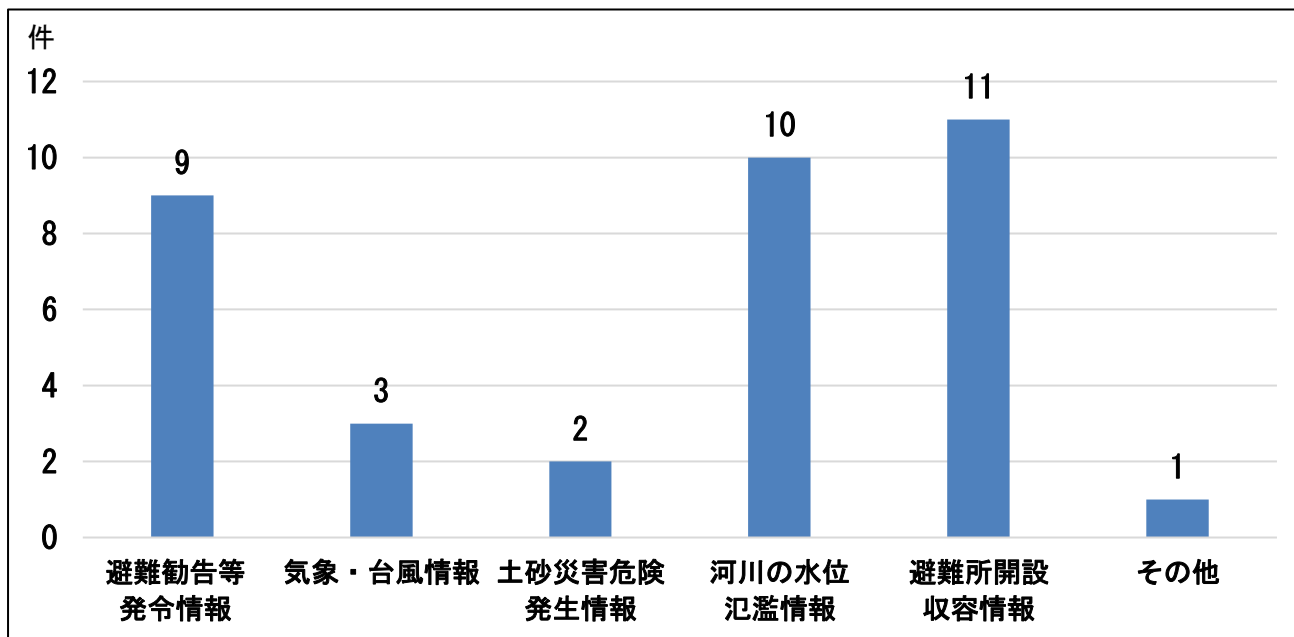
問1 避難勧告等に関する情報を何から入手しましたか？(複数回答可)



その他内訳：1. 町会長より連絡 2. 支所長から連絡

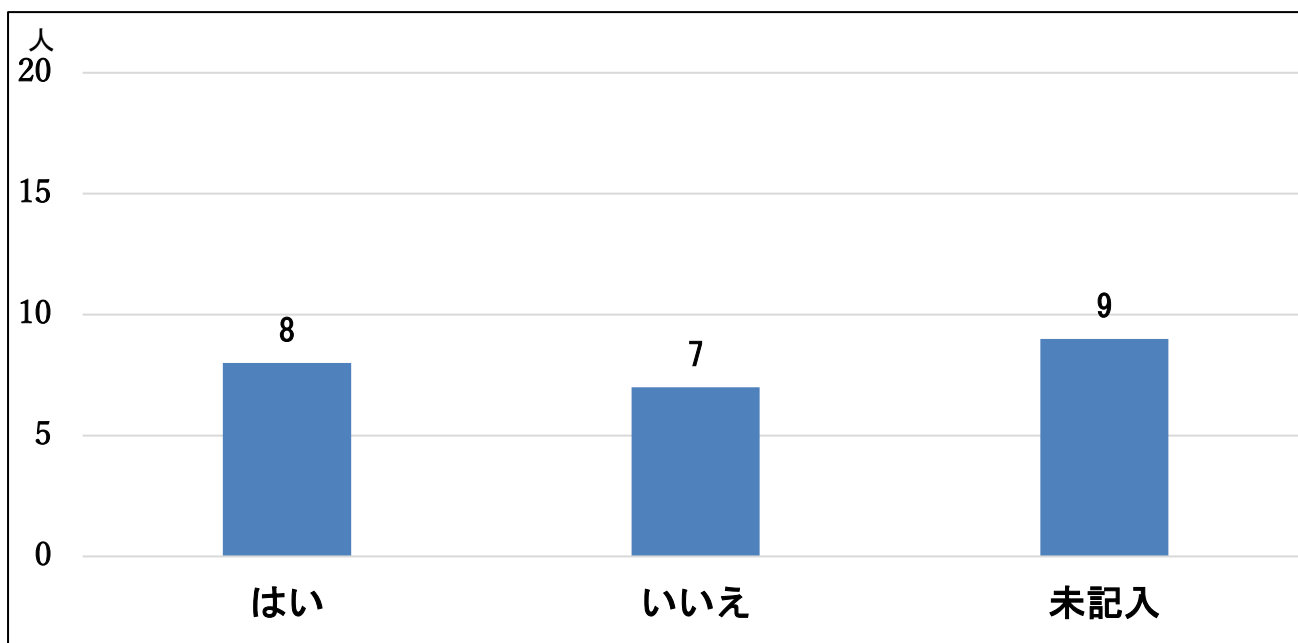
問2 今回の台風第19号の接近時、特に必要と感じた情報は何ですか？(一つのみ)

※複数回答者あり

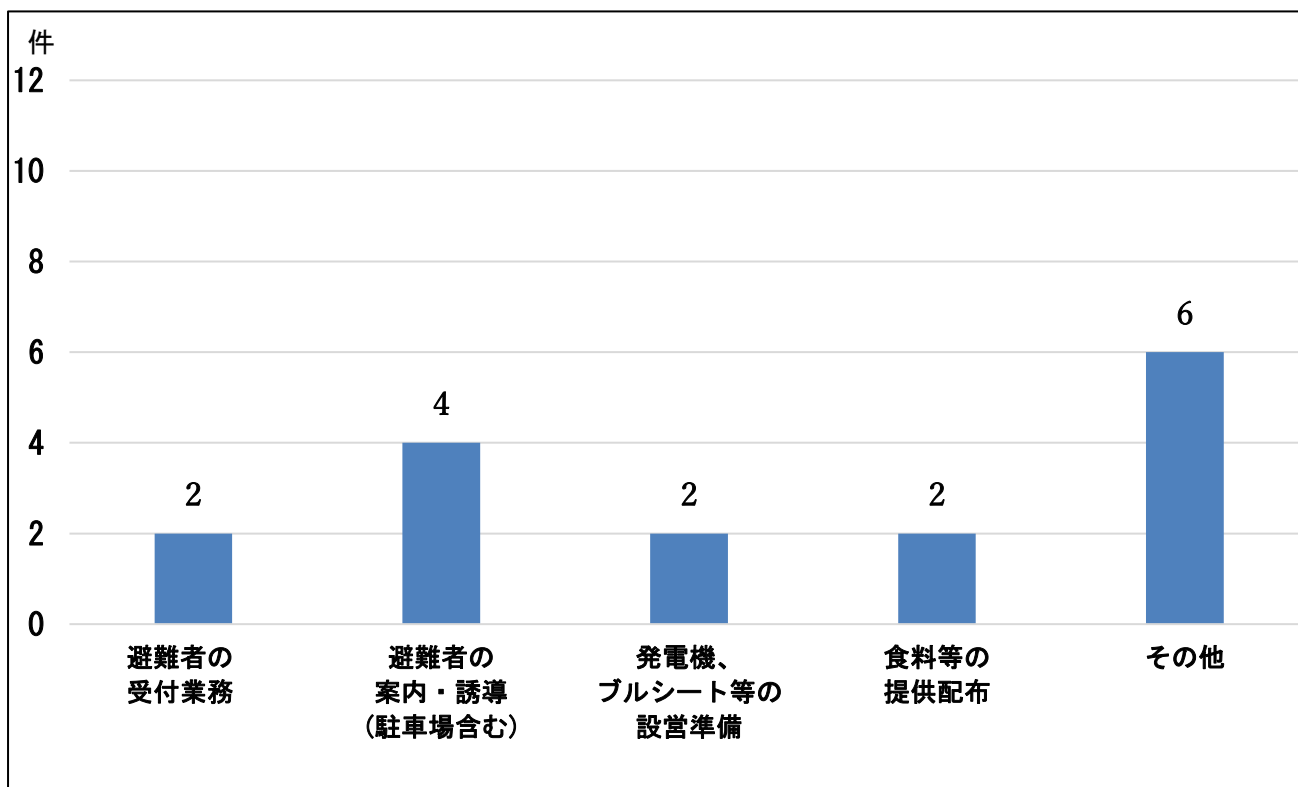


その他内訳：1. 市より区長に緊急通報の情報伝達

問3 避難所の運営に何らかの形で関わりましたか？

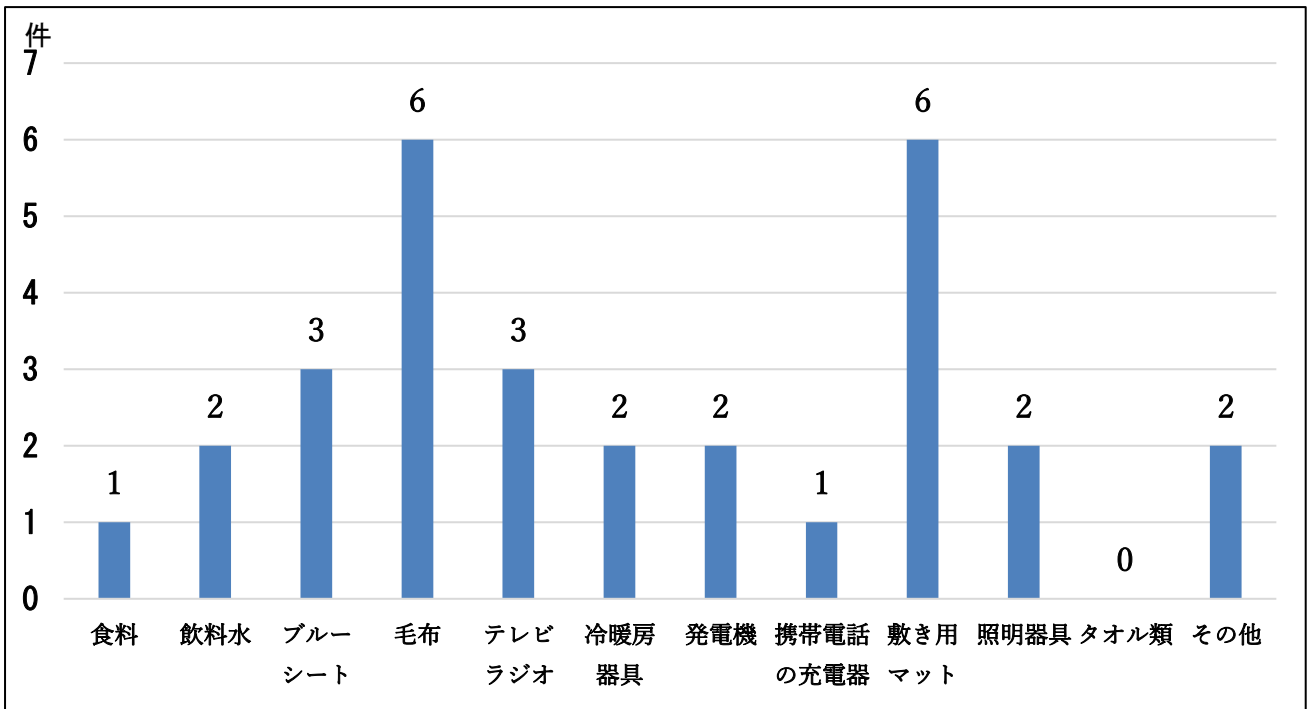


問4 関わった運営業務は何ですか？（複数回答可能）



その他内訳：1. 確認・指示、2. 留守宅の相談・鍵の確認 3. 避難者情報
4. 毛布の配布 5. 情報を聞きながら待機 6. 避難者からの情報収集

問5 避難所において必要であると感じた物資は何ですか？(3つまで回答可能)



その他内訳：1. 床に敷く厚いシート又はアルミシート 2. マルチタップの携帯充電器

問6 避難所で困ったこと、今後の要望がありましたら、ご記入ください

困ったこと

- ・フローリングのため、ブルーシートや御座で対応していたが、避難者から床が冷えて休めなかったという声があった。
- ・市は、自主避難時、必要な物は各自用意をするとのことだが、布団や敷物の様な大きい荷物になるようなものまで避難所へ持って行けない。場所だけ提供するだけでもよいものかどうか。
- ・学校（小中体育館）と町会の避難所の違いについてももう少し細かく説明しておくとうい。
- ・体の不自由な人の移動には介助が必要である。
- ・運営側の人手が足りなかった。
- ・避難所に電話しても誰もでない。
- ・情報収集できるものが全くない。
- ・トイレが室外しかなく風雨が強く照明もなく女性が大変だった。

今後の要望

- ・避難先での実践事項を具体的にしておき、年に2度はシミュレーションして訓練する。
- ・ブルーシートだけではなく敷マット（少し厚いもの）を用意していただきたい。
- ・身近に車いすがあるとよかった。
- ・避難所への連絡手段があると良い。
- ・防災無線、テレビ・ラジオ等を設置していただきたい。
- ・「避難準備・高齢者等避難開始」発令で、該当地区のすべての避難所を開設してほしい。
- ・住民が危険を感じる場所を避難所にしない。
- ・一次避難後、二次避難はリスクが高すぎる。
- ・自主防災会で避難所を緊急開設する。その後、運営は市の職員と共同で行う。
- ・災害弱者の早期避難を勧めているにも関わらず福祉避難所の対策が取れていない。
- ・避難所は、公民館や学校では対応しきれない。

問7 「避難所への避難が必要であったのに、寝たきりや障害等の理由で避難できず、自宅にとどまった方々」に対して、行政や地域のあり方について検討を行っています。そういった方々への支援のあり方についてのご意見やご要望をご記入ください。

意見

- ・早期情報伝達、早期対応。
- ・先ずは、家族が支援。
- ・大雨のケースは、日頃において自助の面からシミュレーションを実施しておく。
- ・近場での、避難が可能となるよう、すべての避難所を開設する。
- ・避難勧告の前の「避難準備・高齢者等避難開始」の発令がなかった。
- ・「高齢者等避難開始」が発令後、先ず一人暮らしの高齢者を見守っている民生委員の情報をもとに、自立して避難可能な人と不可能な人に分け、自立できない人へ電話や訪問により避難を促した。しかし、こうしたやり方では限界があると感じた。自主避難できない方には、やはり家族が対応することが原則であると思う。同居していない家族で市内や近郊に住んでいれば早めに避難すれば可能である。
- ・プライバシーもあるため、寝たきり、障害のある方と普通な人との識別が難しい。
- ・本人や家族から日頃から、非常時には助けてほしいとか申し出があれば対応が早いと思う。
- ・移動は困難であり無理なので、そばにいてやる、寄り添ってやる人が必要。
- ・自分で動けない人に対して近所の人を5人～6人担当としておく
- ・民生委員さん、近隣の方、親戚の方たちと連絡を取りながら、早めの避難ができれば

いい。

- ・酸素吸入機器を使用している人や、足腰が悪くて歩けない人は遠方移動は困難。近所で安全な家に避難出来ないか。
- ・高齢者、障害者等で家族のフォローがあるのかないか事前調整が必要。
- ・避難前に地域の町会役員に連絡してくれた人もいて良かった。
- ・一般的避難の講話も必要だが、身近な事柄についての話し合いが必要ではないだろうか。

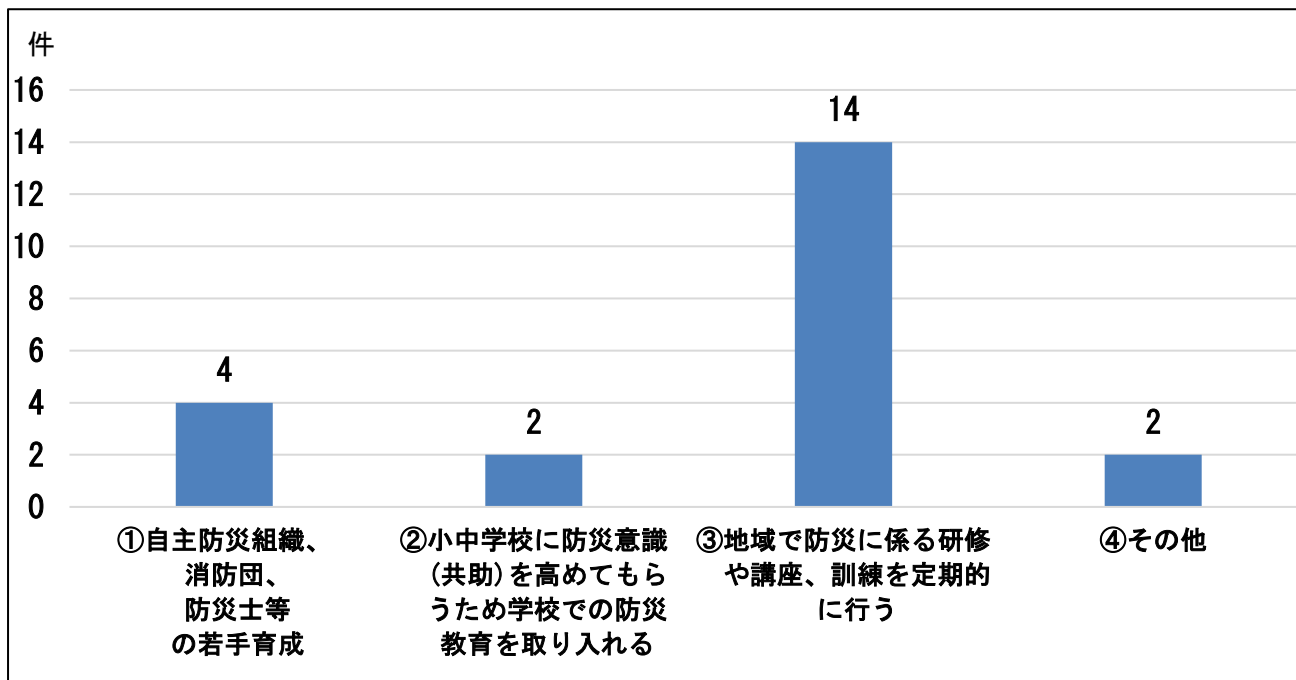
要望

- ・医療機器がある病院に早めに避難して泊りを可能にする。
- ・交流が深ければ、近所の安全な家に泊りで避難する
- ・台風は、数日前から情報キャッチが可能なので指示・支援体制の準備が必要であり、一番大切と思われます。
- ・地区内の集会所の開放も要請によっては開放する用意があるのでご検討を。
- ・夕方前の明るい内に、お年よりが行動できるよう、状況を考えて早めに避難準備情報を出すべき。
- ・個人情報保護を理由に該当者が誰だかわからないため、そういう情報は自治会役員や民生委員等は共有する必要がある。それぞれの役員には守秘義務があるのだから開示をすべきである。
- ・要支援者に対する個別計画を作れと国は言うけれど、誰が誰を助けるという責任のようなことは適さないと思う。まずは家族が責任をもって対応するとともに家族への連絡ができるような名簿を作成しておき、行政・地域で連絡できる体制作りをする。その次に、隣近所の日頃のつながりを作り、要支援者の把握をしておく。

問8 大規模災害時には共助(近隣との助け合いや地域でのコミュニティづくり)が重要です。共助を根付かせていくためには、何が必要だと思いますか？下記の選択肢から一つお選びください。また、選択した意見・理由等もご記入ください。

※複数回答者あり

1. 自主防災組織、消防団、防災士等の若手育成
2. 小中学校に防災意識(共助)を高めてもらうため学校での防災教育を取り入れる
3. 地域で防災に係る研修や講座、訓練を定期的に行う
4. その他



その他内訳： 1. 日頃から地域行事等を盛んにして、密接な関係を築くこと
2. 一次避難場所の増加

選択した理由・意見

問8 回答②(小中学校に防災意識(共助)を高めてもらうため学校での防災教育を取り入れる)

・私の区では、防災講座や訓練の実施時において子育て連等にも参加要請しているが、仕事や子育てを理由に参加してもらえない。若手に参加してもらうには、子供がやるイベントや大会には多くの保護者が参加するので、これと同じように小中学生に防災教育を取り入れることで親も防災意識が高まり地域に感心を持つのかと思う。

問8 回答③(地域で防災に係る研修や講座、訓練を定期的に行う)

・区長として、各町会に自主防災組織や地域防災に関する会合を持ち、研修や勉強会の必要性の課題を出して、感心が深まり、少しずつでも前進するように努力をする方向に勤めていく考えであります。

・現在、余りにも意識がなさすぎます。これからは何が起こるかわからないので、いざという時の行動をどうとるかの知識がほしい

- ・地域で取組むことにより、災害対応の意識がお互いに生まれて、共助の気持ちも育成されていくと思われます。
- ・地域での災害に対する意識に温度差があるため。
- ・私の区では、群大の片田教授、金井教授などに依頼し、防災研修会を行っている。今年には中学校講堂に小中学生、PTA、教員を集め群大金井教授による防災研修会を実施した。
- ・自主防災は日頃から訓練が大切であり、何回も繰り返し行うことが大切である
- ・避難所を開設したり、避難が長引いたりしたら組織として対応しなければならない。すぐに組織で対応できるような体制が必要である。
- ・避難者・支援者が高齢のため避難訓練を重ね手順を決め災害時には、手際よく避難が出来るようにする。
- ・地域で動くと言うのは、具体的ではなく組合も5、6軒から30軒ぐらいあるので3～4軒で1チームとしたら動きがよくなると思う。
- ・自主防災組織を立ち上げ、防災、避難等の講座、訓練を進めたい。
- ・日頃から地域コミュニティや信頼関係がなければ非常時は通用しない。
- ・水害時、地震時、火災時等各種の災害が予想される中でそれぞれの事案で地域内の行動方法を考えておく必要がある。小さい活動から地域のつながりをつくり自助部分、共助部分を把握しておく。
- ・研修、講座等他地区のアイデアを提供してもらい地域に根付かせる。

問9 今回の台風第19号を踏まえ、行政(国、県、市)に力を入れて取り組んでもらいたいことは何ですか？ご要望をご自由にお書きください。

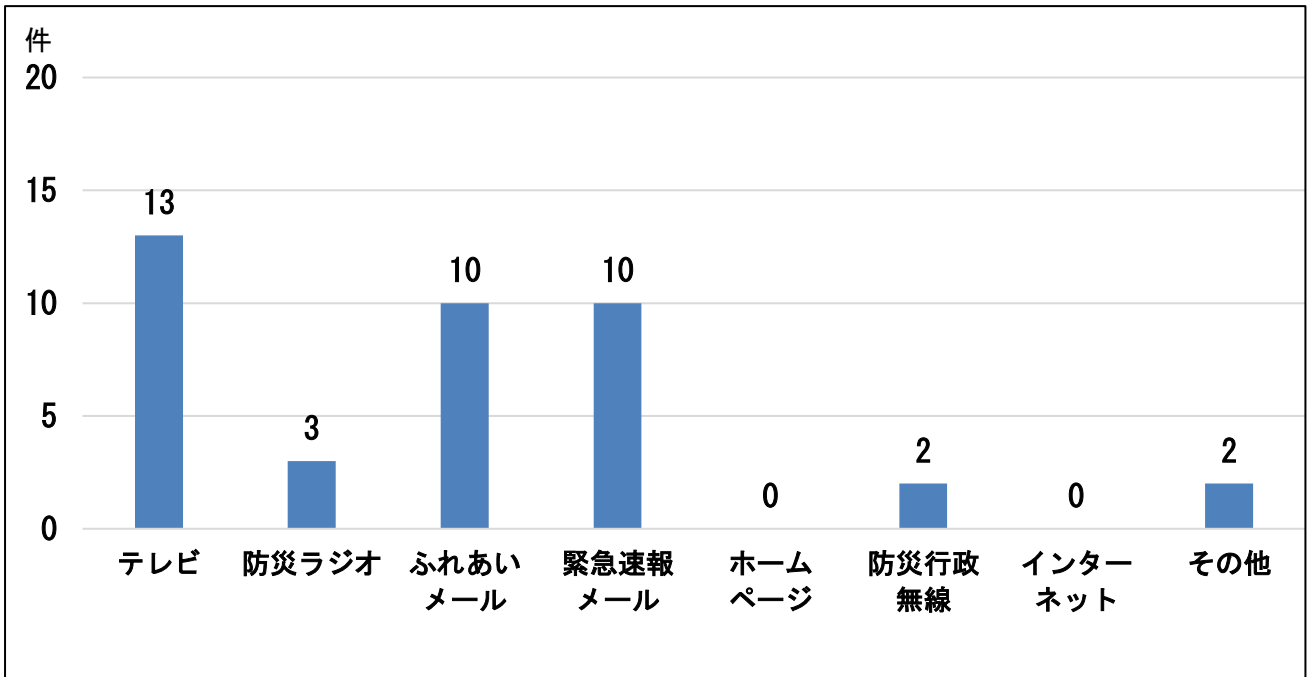
要望

- ・災害が有るたびに感じるのは、行政の被害者への援助が少ないのを常を感じております。
- ・避難所の準備が遅く、物資もない。今回は全員帰宅したが、素早い対応をお願いしたい。
- ・今後は、防災(地震・水害・大火事)についての対応のシミュレーションを徹底して実践することを望みます。
- ・公民館(館長及び職員)側と区長、全自治会長との防災時における避難場所の対応等について、年度当初に話し合いが必要と思われます。
- ・中小河川の改修等を進めてほしい。今回の堤防決壊や内水氾濫はバックウォーターの影響によるところが大きいと言われているので、バックウォーターの影響範囲について対策を講じてもらいたい。
- ・メール等で情報発信するだけでなく、市から直接区長宛に、一報を入れてください。その方が各地域が早く組織的に動けるのではないだろうか。

- ・避難勧告は夜間ではなく明るい時間帯に早めに出して頂きたい。
- ・異常気象、予測不能の事態が起きた時、速やかな情報提供をお願いしたいです。
- ・自治会、自主防災組織と行政との連携がまったくと言って良いくらい、図られていなかったと思います。市の職員が少なくなっている昨今では、職員の対応には限界が有ると思いますので、もっと地域の協力が得られるようシステムを構築すべきと考えます。
- ・避難所の選別、受入体制、備蓄品等の充実。
- ・緊急連絡体制の整備。
- ・被災時の一時避難場所について公民館や学校だけではなく近場にある、空屋等も利用できないか。寺、神社の本堂、社務所等も加えればと思う。

● 民生児童委員 各地区会長への質問に対する回答

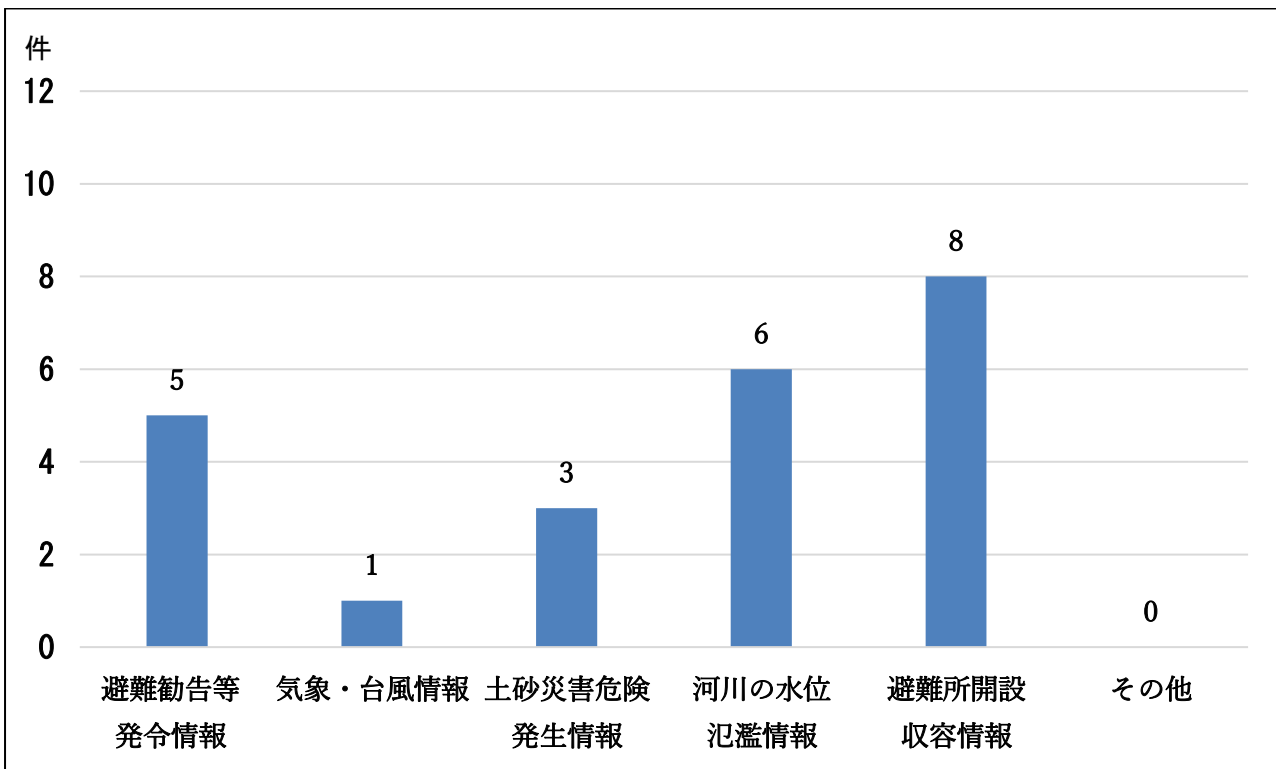
問1 避難勧告等に関する情報を何から入手しましたか？(複数回答可)



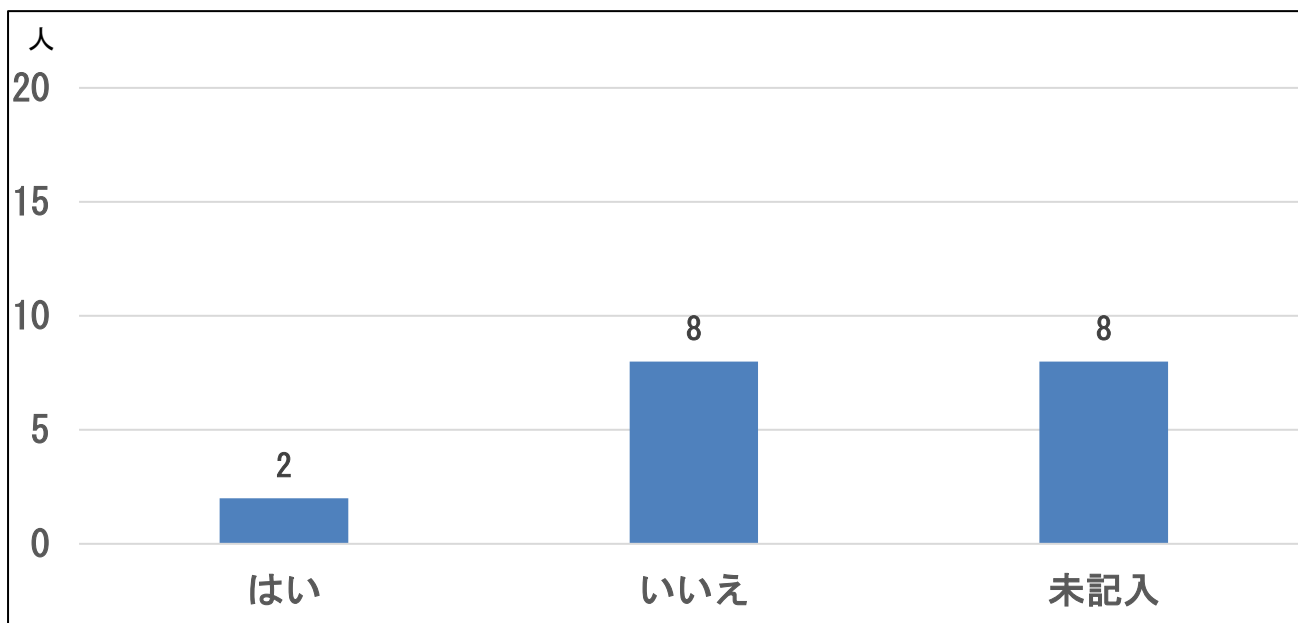
その他内訳：1. 子供から連絡 2. スマートフォン

問2 今回の台風第19号の接近時、特に必要と感じた情報は何か？(一つのみ)

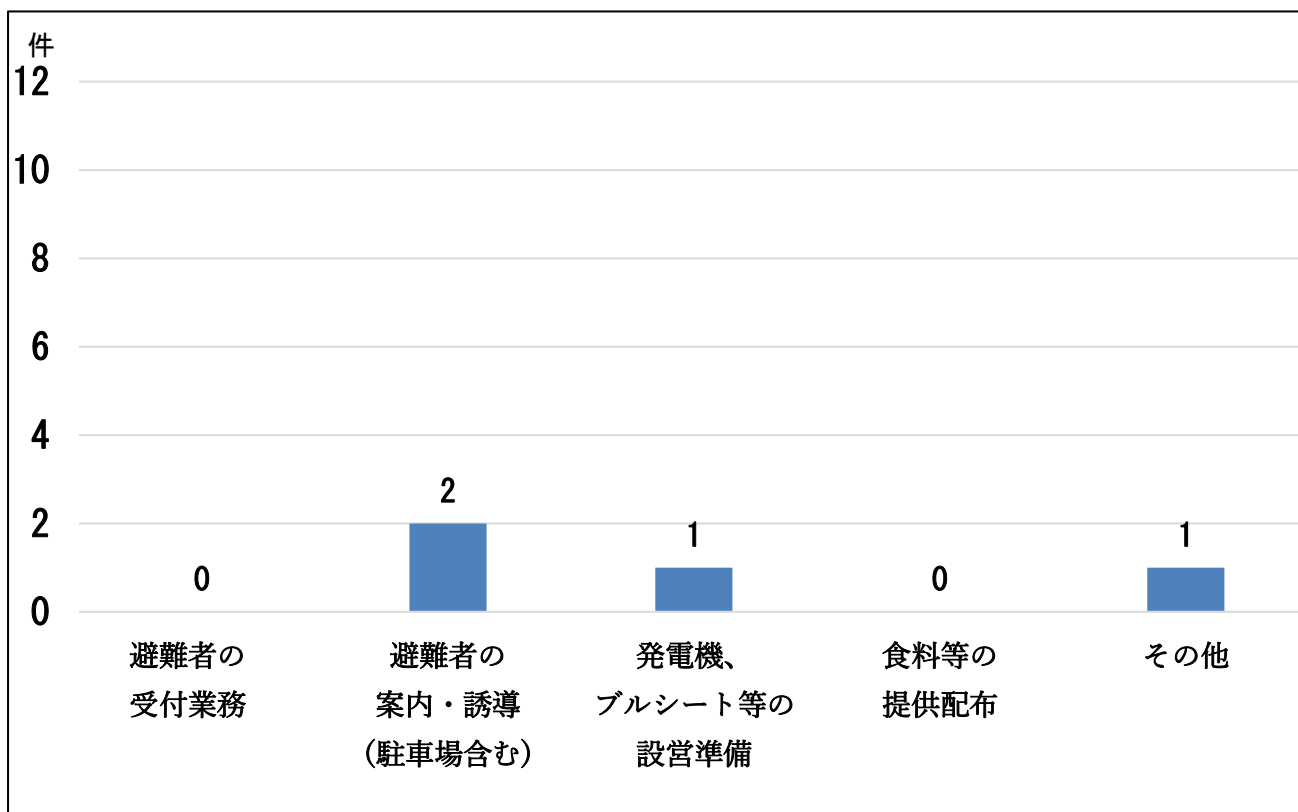
※複数回答者あり



問3 避難所の運営に何らかの形で関わりましたか？

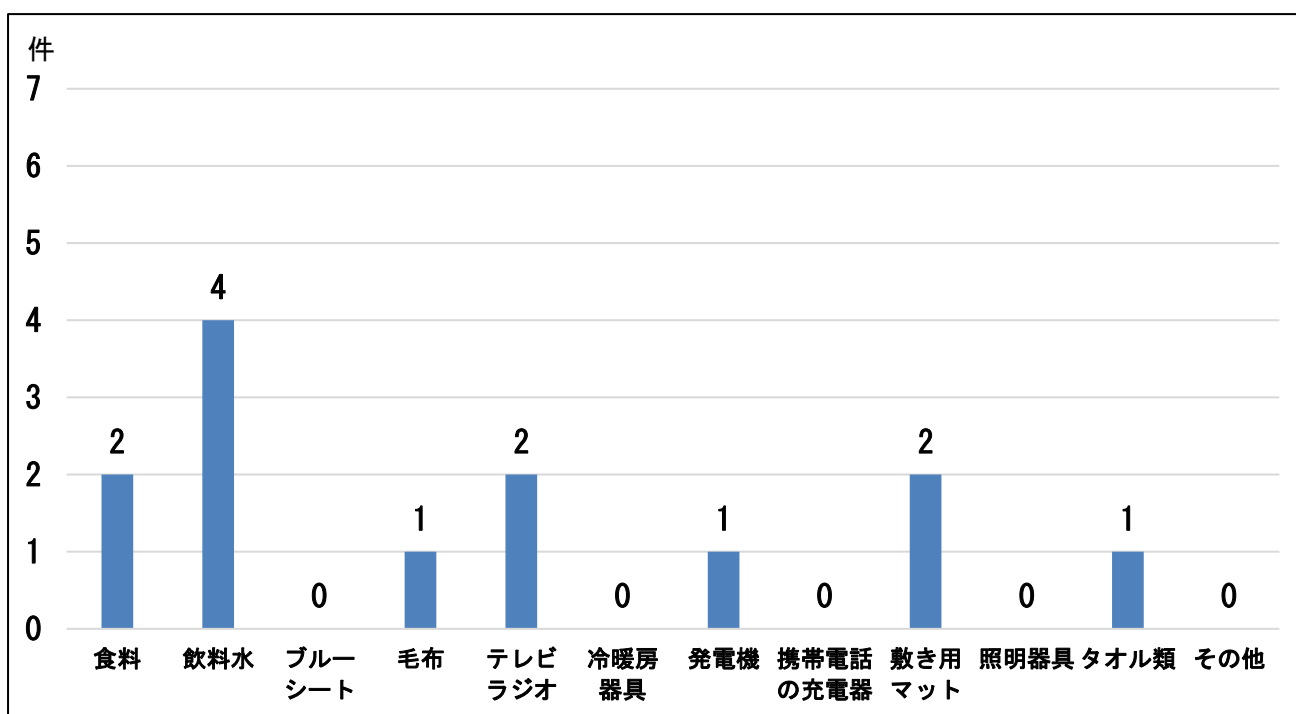


問4 関わった運営業務は何ですか？（複数回答可）



その他内訳：1. 13日5時半頃、避難所へ行き状況を担当職員より聞いた

問5 避難所において必要であると感じた物資は何ですか？(3つまで回答可)



問6 避難所で困ったこと、今後の要望がありましたら、ご記入ください。

困ったこと

- ・避難所がいっぱいで地区の人が入れなかった。
- ・担当地域の高齢者の中で、「避難所が遠くて行けない」という方が何人かいた。近くに親族がいる人は良いが、「親族が遠いため不安」と言っていた人もいた。また、「1人では避難が出来ない」と市役所の福祉課へ電話したという高齢者もいた。
- ・対応する人が不足。
- ・避難所が遠い人だと40分から1時間かかる人もいる。避難所まではいかない人が多かった。(雨の中で避難は車がないと無理)

今後の要望

- ・ハザードマップも広範囲でなく区別して避難所の確認をしやすくするのも良いと思う。
- ・駐車場の確保。
- ・避難所の運営は、地域の人にも入ってもらったら良いのではないかと。
- ・避難する時は、飲食物、寒くない様に衣服にも気を付ける様、周知していただきたい。
- ・車がない人のために、近くの集会所も利用した方が良い。
- ・避難所と決められた場所には、若干の避難物資を備蓄して欲しいと思います。中には、避難所に行けば避難物資が揃っていると思っている人が何人もいました。

問7 「避難所への避難が必要であったのに、寝たきりや障害等の理由で避難できず、自宅にとどまった方々」に対して、行政や地域のあり方について検討を行っています。そういった方々への支援のあり方についてのご意見やご要望をご記入ください。

意見

- ・他の人が危険でない範囲で早めに避難に協力、事前の情報が重要であると思う。
- ・1人で避難出来ない人に頼まれた時どうしたら良いか考えてしまう。
- ・担当している一人暮らしの高齢者については、「避難出来ないので、民生委員宅へ避難していいか」と言われた人が3人いる。
- ・要支援者宅を見守りに行った民生委員に、その人は「誰かが迎えに来て、避難所へ連れて行ってくれると思った」と言った。
- ・自分で避難できない人に対して、隣近所の人に日頃から声掛けをして、頼む以外しか方法がないと思う。
- ・避難所まで距離があり、時間がかかるため、ほとんどの方が自宅待機でした。
- ・近所の比較的安全なお宅に依頼し一時的な避難を行う。
- ・集会所は近くにあるので活用すべき・早めの避難が必要です。（明るい内に）
- ・子供や親族の手助けが必要です。
- ・支援をする場合には、昼間の早い時間に行動する。
- ・当町会は、避難所が遠いため、比較的安全な町会内の介護施設へ前日に避難受入を依頼し、町会内の一人暮らしの高齢者等へ事前連絡を行った。
- ・台風の様にももって予測できる災害の場合には、避難勧告を待っての行動ではなくもっと早めの対応が必要だったと思う。

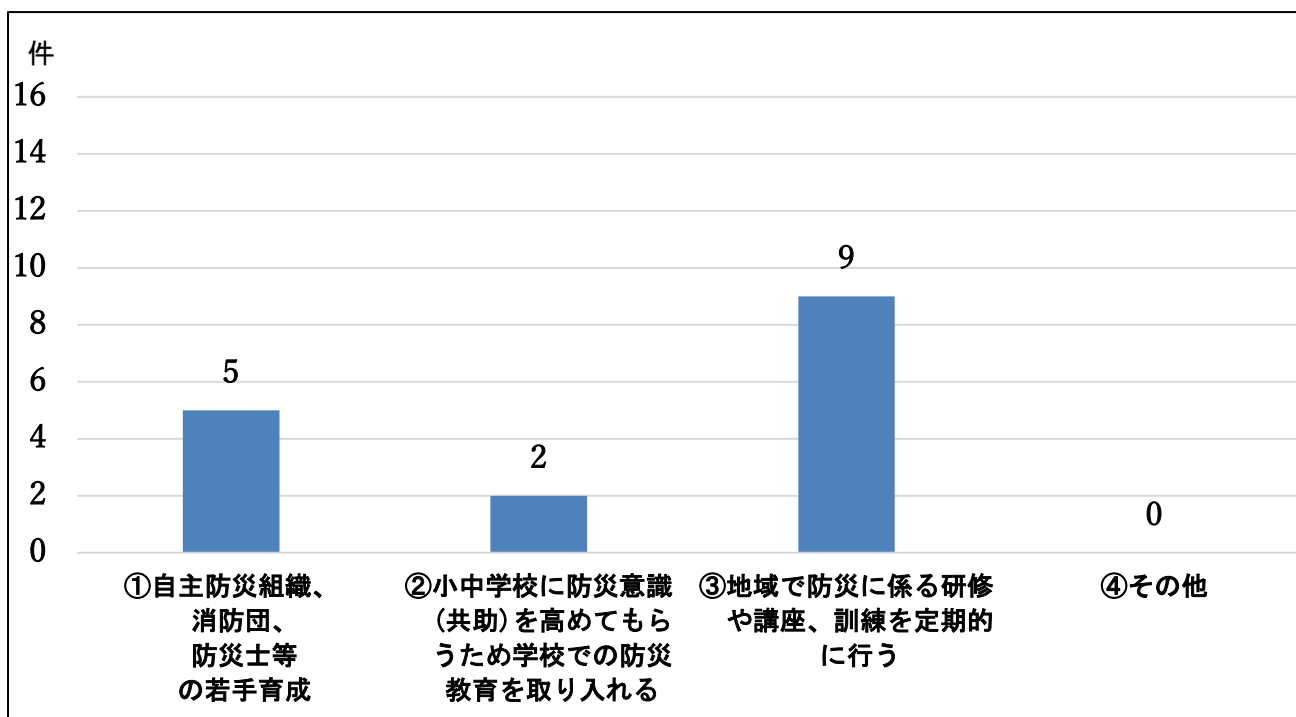
要望

- ・車椅子利用の障害者の方から避難要請がありましたが、車に乗るにも車椅子でないと利用できません。民生委員の自家用車では対応できません。車イス利用できるタクシーもあると聞いていましたが、いざ利用したいと思ってもすぐに対応できません。結局この方は自宅に居ました。
- ・行政への対応をお願いするのは、「職員数から無理なので諦めます」という定例会での結論となりました。
- ・区の民生委員児童委員の定例会において、出席した市の担当者に体が不自由な方が民生委員に避難を求めてきたが、行政の対応について伺ったところ、行政では対応していませんとの回答。
- ・一人暮らしの老人等が多い為、避難時の車の手配等を行政にお願いします。
- ・協力者を増やす。
- ・避難所の早めの開設や対応人数の周知。

- ・市民児協・役員会にて検討しなければならない課題と思います。
- ・独居老人や障害者に対して防災ラジオを持っていただけたらどうか。
- ・障害者の方々への対応は本当に難しいことが沢山あります。どう対応すればいいでしょうか。この他にも様々な問題があります。自主防災組織で細部について検討していく必要があると思います。
- ・指定避難所以外にも、地域内に独自の避難所の設置も必要ではないか。
- ・同じ桐生市内でも山間部と町では災害に対する対応が違って当たり前だと思う。山間部では、共助も重要だが行政に頼らざるを得ないことも多い。

問8 大規模災害時には共助(近隣との助け合いや地域でのコミュニティづくり)が重要です。共助を根付かせていくためには、何が重要だと思いますか？下記の選択肢から一つお選びください。また、選択した意見・理由等もご記入ください。 ※複数回答者あり

1. 自主防災組織、消防団、防災士等の若手育成
2. 小中学校に防災意識(共助)を高めてもらうため学校での防災教育を取り入れる
3. 地域で防災に係る研修や講座、訓練を定期的に行う
4. その他



選択した理由・意見

問 8 回答①(自主防災組織、消防団、防災士等の若手育成)

- ・自主防災組織が、まだあまり機能していない
- ・高齢者ばかりなので、自分自身の身を守るのが精一杯だと思います。若手も人数が少ないので大変ですが、やはり若手に頼るしかないのでは。
- ・各団体・組織の構成委員は高齢者が多く P T A や育成会の若い親達の育成、そして中高学生の地域への協力を希望します。
- ・現在、地域の中心はすべて高齢者が担っている状況であり若手の育成が必要である。

問 8 回答②(小中学校に防災意識(共助)を高めてもらうため学校での防災教育を取り入れる)

- ・中学生以上の学生は立派な協力者になる。早くから共助の大切さを教えるべき。

問 8 回答③(地域で防災に係る研修や講座、訓練を定期的に行う)

- ・事前に知識がないと実際の行動ができない。
- ・人口減少の桐生市で大規模な防災組織の運営は無理です。一人暮らしの高齢者が桐生市で指定した避難所へ行くのは、避難所のすぐそばの人を除いて無理です。ましては、夜の暗い中ではなおさらです。町内単位で地域の会社等のビルや介護施設、丈夫な民家等と話し合いをして災害時にどこが、どういう条件で何人位引き受けられるかを決めておくのが現実的です。
- ・地区内によっては老人家族（65歳以上）と空き家が最近増加しており、若手がほとんどいない現状です。その地区内に対して研修訓練を定期的にする以外ないと思われま
- す。
- ・地域で定期的に研修訓練を実施し、各自ができる範囲で協力し助け合える仲間づくりをする。
- ・自主防災組織があるとは言え、地域住民の方々の協力なしでは、立ちいきません。地域住民一人ひとりに行きわたるように定期的に講座・訓練を行っていただきたい。
- ・区と防災組織の連携について、もう少し講座等で定期的実施した方がいいと思う。
- ・普段から地域の役員を中心に、災害への関心を持つように呼びかけ、近隣同士の助け合いを学ぶ。

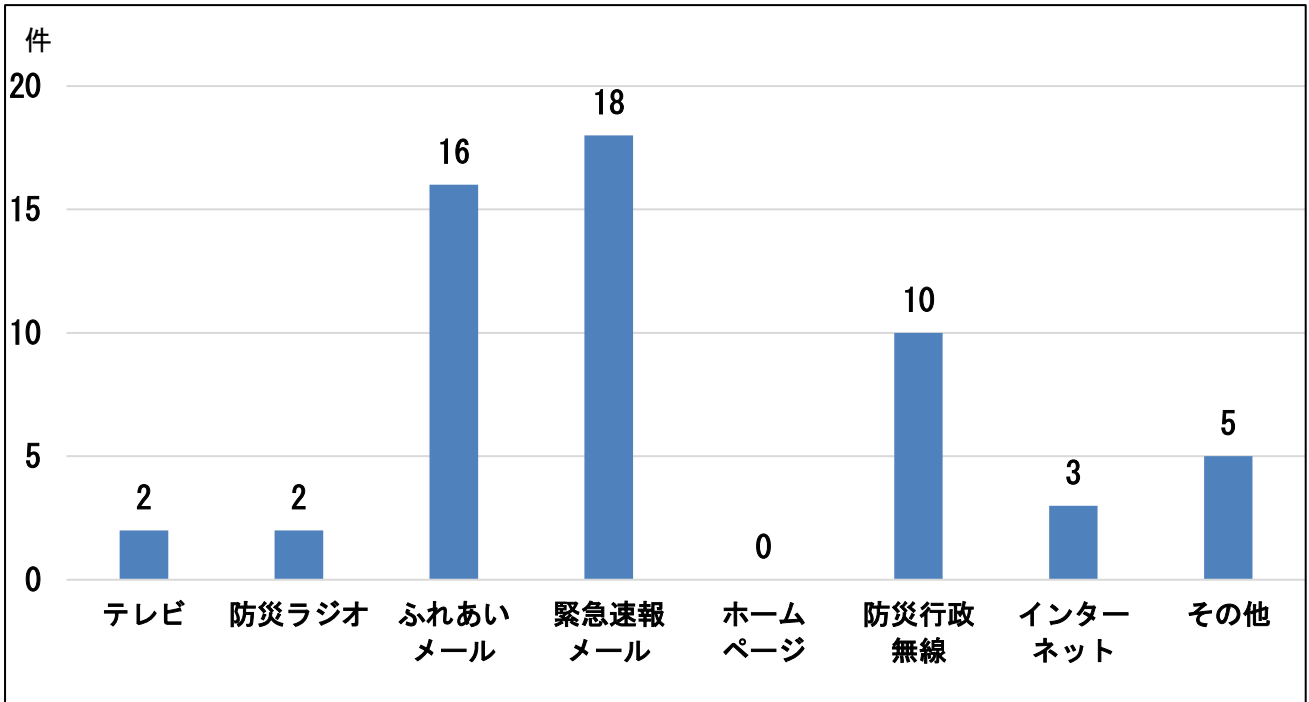
問9 今回の台風第19号を踏まえ、行政(国、県、市)に力を入れて取り組んでもらいたいことは何ですか?ご要望をご自由にお書きください。

要望

- ・桐生川の水位の情報を確実に伝達してほしい。
- ・災害にあった市などから情報収集。
- ・雨や風のひどい時に避難することは、非常に大変であり、難しさを感じました。
- ・災害に強い町づくりを考えた場合、自助、共助、公助はどの様なことであるか、やさしく知識として多くを知ってもらうのではなく、身を守るのは、何が必要かを周知してもらうのが一番ではないかと思っています。
- ・災害発生中は、行政に頼っても無理ということが今回、わかりました。
- ・復旧作業を早く行う体制を作ってもらいたい。
- ・現在の施設をもっと活用すべきと思う。地域によって水害や土砂災害、風害など差があると思うので地域に合った施設を選出すれば良いのではないか。
- ・避難所を早めに開設して欲しい、また、もう少し多くしてほしい。
- ・避難所になっていても開設していないところもあるので同時に開設して欲しい
- ・13日の朝から民生委員全員、担当地区の方々の家に安否確認をしました。色々な課題が出ましたが、本人が動けない人などはあらかじめ子供さんの対応が多く、これからは早めの避難について、また、遠い避難所に行けないことが多く出ました。
- ・避難場所の周知徹底を早めに希望します。
- ・早期の情報提供。(一人暮らしの高齢者に対して)
- ・公民館の車が置けないので、少し広くしてもらいたい。
- ・自主防災組織の指導・教育。災害時危険個所の整備。

●消防団本部員・各分団長への質問に対する回答

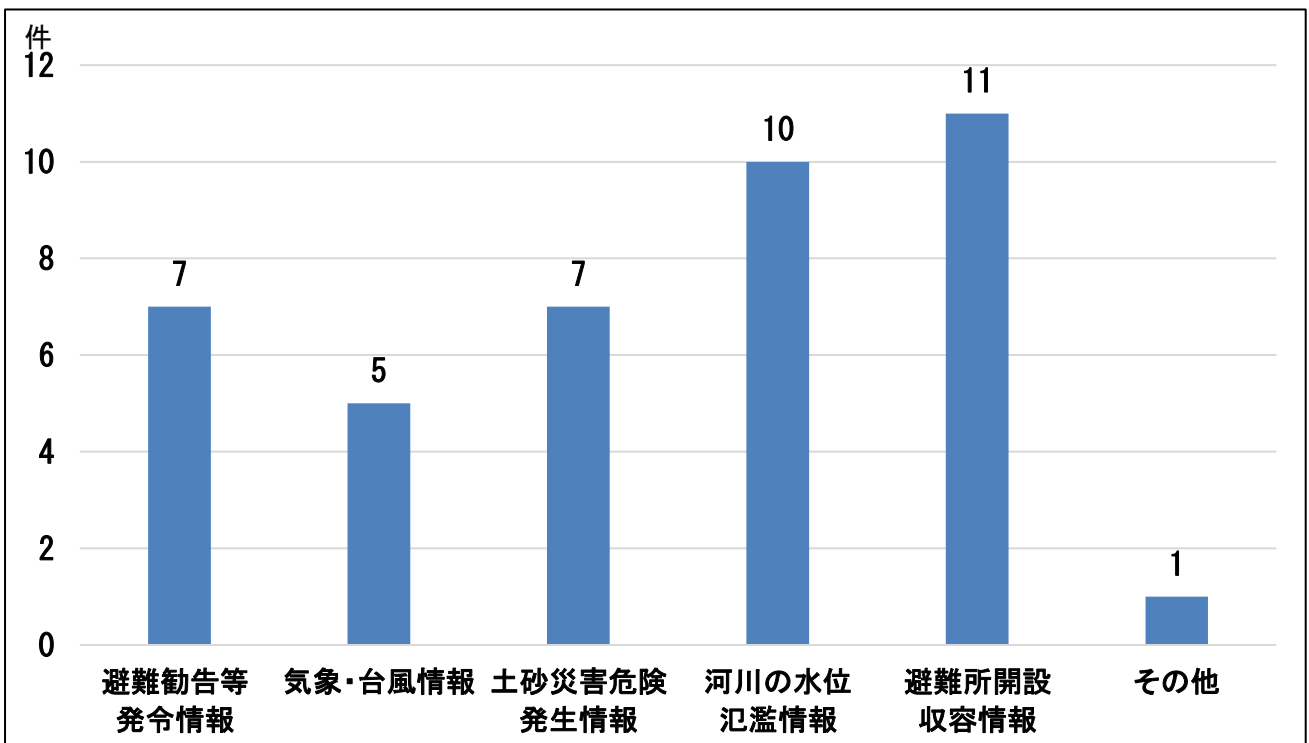
問1 避難勧告等に関する情報を何から入手しましたか？(複数回答可)



その他内訳：1. FM桐生 2. 団本部の連絡 (2件) 3. 団本部のメール 4. 未記入

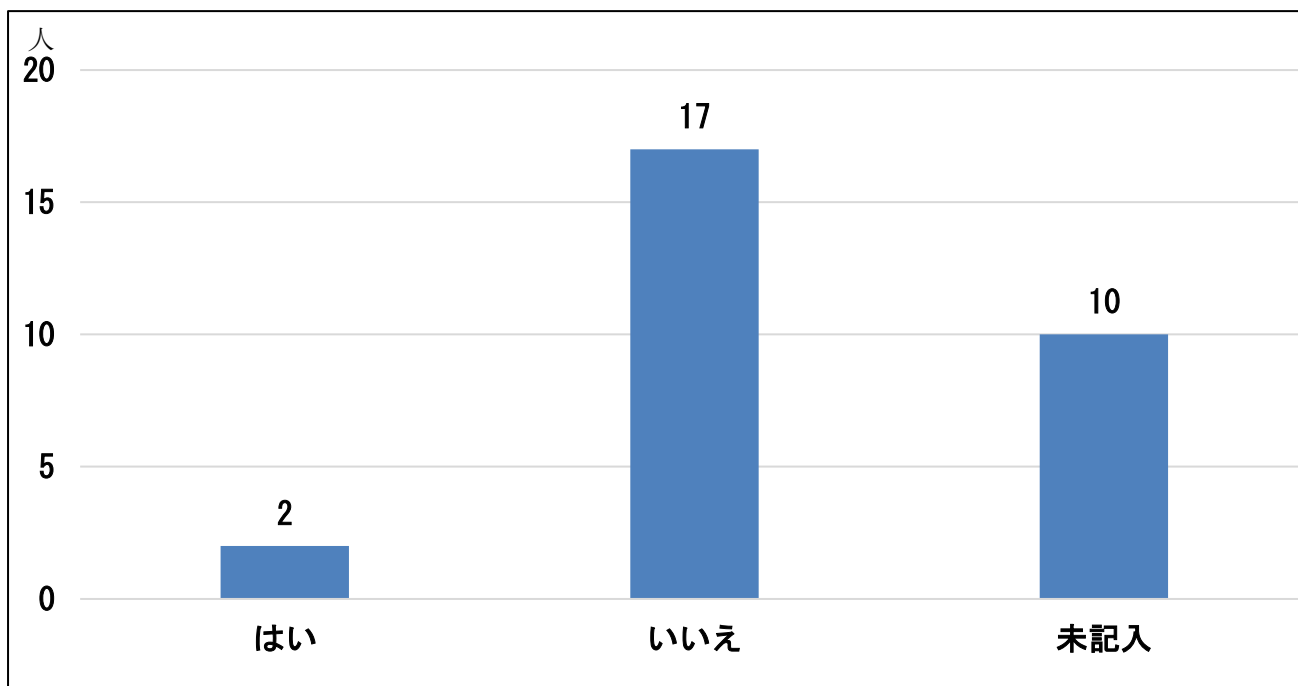
問2 今回の台風第19号の接近時、特に必要と感じた情報は何か？(一つのみ)

※複数回答者あり

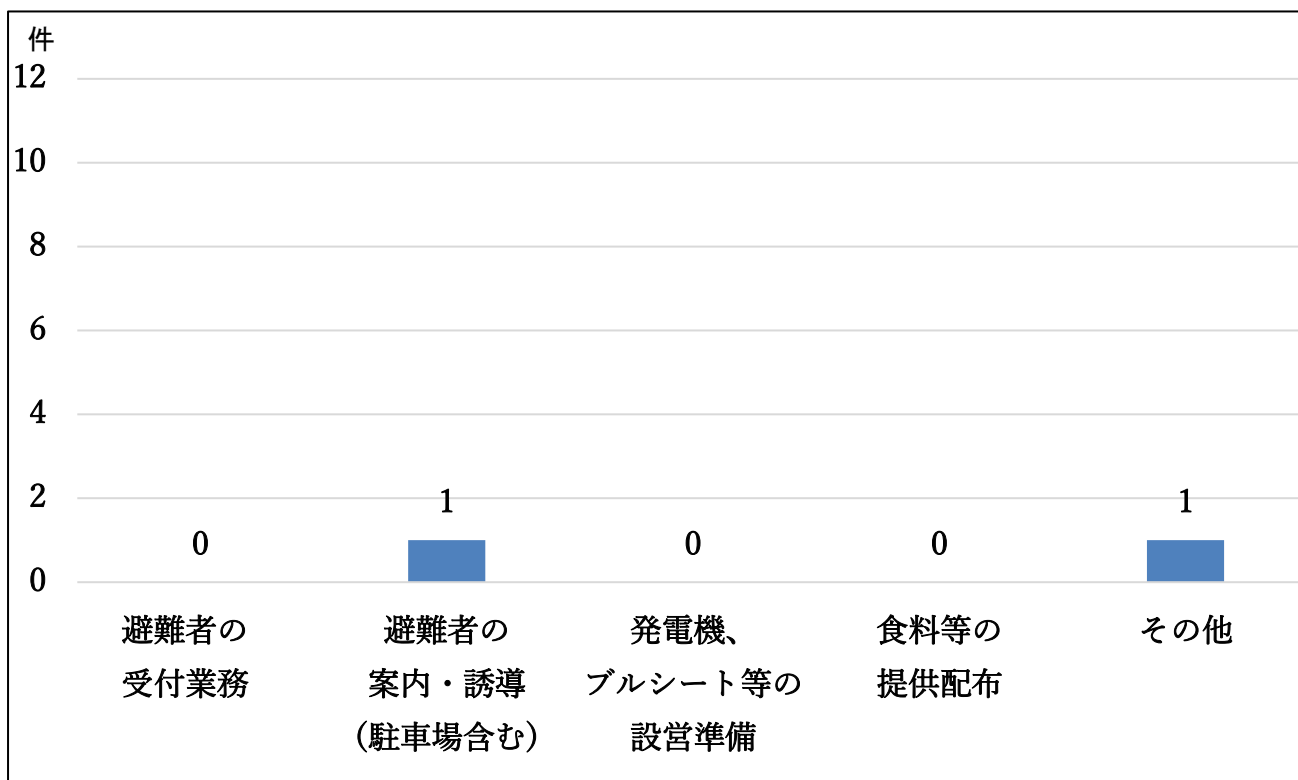


その他内訳：①消防・警察・市役所の情報共有と連携

問3 避難所の運営に何らかの形で関わりましたか？

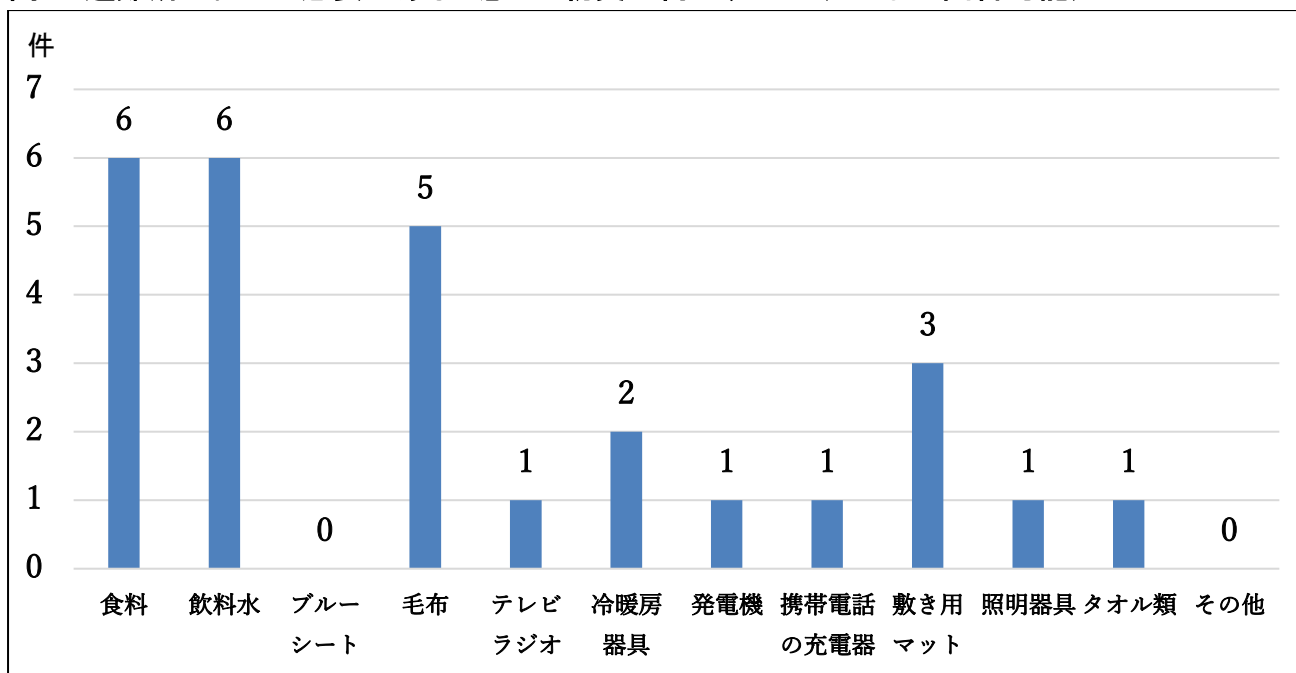


問4 関わった運営業務は何ですか？（複数回答可能）



その他内訳：①避難者数の確認

問5 避難所において必要であると感じた物資は何ですか？(3つまで回答可能)



問6 避難所で困ったこと、今後の要望がありましたら、ご記入ください

困ったこと

- ・ほとんどの避難は車で行う。駐車場の問題と交通整理。(消防団ではない)
- ・避難勧告発令後でありながら避難場所の開設がしていなかった。
- ・各団体の連携がほとんど出来ていなくて避難して来た人が不安がっていた。
- ・区域内に避難所となる場所が4カ所ありますが、どこの避難所が開設しているかよくわからない。

要望

- ・避難所駐車場の交通整理問題は、自治会の交通係をつかってはどうか。
- ・避難場所の配置人員に関して、ある程度、自己判断ができる人物を責任者として、消防本部、分団、行政(区長)などと素早く連絡(携帯電話)が取れるようにしておく。
- ・車での移動が主になる(お年寄りの多い地域)ので駐車場も必要ではないか？
- ・足の不自由な方、お年寄りが多いので2階以上ではなく1階避難所が必要なのでは。

問7 「避難所への避難が必要であったのに、寝たきりや障害等の理由で避難できず、自宅にとどまった方々」に対して、行政や地域のあり方について検討を行っています。そういった方々への支援のあり方についてのご意見やご要望をご記入ください。

意見

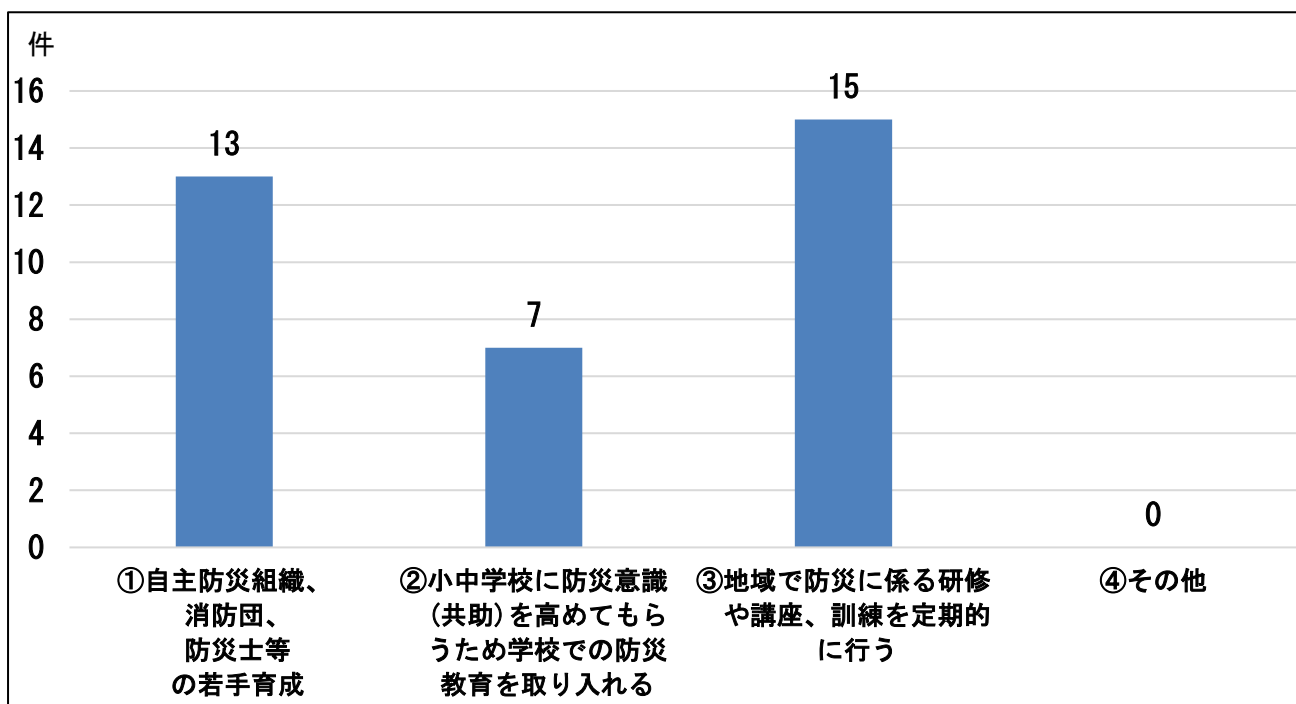
- ・東日本大震災の時、お年寄り等で避難していない人がいた。それを説得して逃げて遅れた消防職団員が多く犠牲になった。
- ・避難勧告以前に避難していただく。（事前準備）
- ・黒保根地域で言えば圧倒的に人材不足です。1軒1軒確認することもできないし支援することもできない。
- ・自助→共助→どうにもならない時、公助を改めて考えさせられた。災害が発生した時や、その恐れがあった時は、共助の部分でこの地域が可能か不可能かを地域で検証し、行政もそれを共有する。公人も私人もまずは、自分の家族の安全を確認してから次の行動に出なければならず必要な人員の確保に時間的にもロスがある。避難所に伺うのに道路等の安全確認も時に必要と思われる。防災無線の老朽化も再考。いずれにせよ、普段から自分たちの地域や住民のことをよく知っておき、小回りのきく最小自治区でどこまで対応できるか認識しておく事が必要ではないか。
- ・日頃から具体的な方法をシミュレーションしておく必要があると考える。
- ・行政頼みではなく、近くの人々が行う事が大事。とっさの場合は間に合わない。
- ・無理に移動させて何か事故があった時の責任を負わされるのが怖い。危険が差し迫っていたらそうも言っていないジレンマがある
- ・要救助者の見回り、連絡、安否確認。
- ・1人でも多くの方が安心して避難して欲しいが避難が困難な方々の把握ができない。
- ・「寝たきりや障害者等の理由で避難出来ずに自宅にとどまった方々」を作らないために、行政、地域住民、企業（介護施設等）が協力、連携し対応できるシステムを作る。
- ・そういった方々に対して誰が確認や連絡をするのか、行政などが役割を明確にしておいた方が良いのではないか。
- ・民生委員さんが避難要支援者さんと、事前に具体的な避難の方法等を確認しておいた方が良いのでは。様子を見に行ったり、手助けしてもらえようをお願いしておいた方が良い。
- ・寝たきりや、自立歩行が困難な人を消防団員が避難所に搬送するのは難しいと思う。
- ・消防団、自主防災だけではなく近隣住民等と協力し合い、避難することにより、迅速な安全確保につながると思います。
- ・行政だけでは隅々まで行き届くのに時間が掛かってしまうので、災害時には近所の住民で助け合う。

要望

- ・東日本大震災の災害時、消防団員の仕事として避難誘導や広報、水門を閉める等で亡くなった職団員が273名いた。どうしたら団員を守れるかずっと思っている。
- ・避難困難者に対して、避難支援等の要求があった場合、消防団に対しての対応方法が不明で、もし要求があった場合の対応法を指導して欲しい。また、消防団としても支援できるようなガイドライン等を指導して欲しい。
- ・行政や自治会での避難誘導、避難方法等をあらかじめ決めておいた方が良いと思います。ただ自治会の方々はお年寄りが多いので行政主体が好ましいかなと思います。
- ・避難勧告の出し方に問題があります。地域によっては自宅の方が安全な人もいるのでもう少し細かく区切ってだしていただきたい。そうすれば、人材をまわせたりするので
- ・自宅にやむを得ず留まった方に、多くの細かな危険情報を無線で流し要救助の連絡がそこから入ったら駆けつける。
- ・個人情報等もあるだろうが、地域で知り共有した方が良いと思う。
- ・消防団は詰め所待機をし、万が一の土砂災害、水災害に備えているので、避難所に向くことが難しい。何らかの方法で地元分団長等に避難所の状況を知らせてもらえたら良いのではないかと思う。
- ・避難誘導は経験がないので活動マニュアルみたいなものがあつたらいいと思う。
- ・避難意識の向上、地域防災協力体制の強化。

問8 大規模災害時には共助(近隣との助け合いや地域でのコミュニティづくり)が重要です。共助を根付かせていくためには、何が必要だと思いますか？下記の選択肢から一つお選びください。また、選択した意見・理由等もご記入ください。 ※複数回答者あり

1. 自主防災組織、消防団、防災士等の若手育成
2. 小中学校に防災意識(共助)を高めてもらうため学校での防災教育を取り入れる
3. 地域で防災に係る研修や講座、訓練を定期的に行う
4. その他



選択した理由・意見

問8 回答①(自主防災組織、消防団、防災士等の若手育成)

- ・地域住民の防災意識の向上。
- ・広い世代への自主防災意識の向上。
- ・消防団に入る人材が少ないため、活動条件も限られるため、若手の育成は必要だと思う。
- ・長いスパンで取組み始めなければならない時期にあると思います。主導を決めると言わず各機関でアイディアを出し合う場を作るべきかと思います。
- ・自主防組織の積極的運用、自主防災組織の活性化。
- ・分団員の人数不足、地域とのコミュニケーション不足。
- ・自主的に近所とのつながりがもてる。情報共有が保てる。

問 8 回答②(小中学校に防災意識(共助)を高めてもらうため学校での防災教育を取り入れる)

- ・ 共助を根付かせる為には、特に小中学生に防災意識を高めてもらうため、学校での防災教育を取り入れることは自主防災組織、消防団、防災士等の若手の育成にもつながる
- ・ 小さい頃から防災意識を高めるのは重要だと思っています。自分は大丈夫と思ってしまふ事が災害時において一番危険。

問 8 回答③(地域で防災に係る研修や講座、訓練を定期的に行う)

- ・ 消防団は常に訓練をやっている。自主防災組織や自治会役員の実研修が必要、同様に地区の交通係も市職員も卓上の研修ではなく実際に訓練が必要。特に部長、課長級。
- ・ 大規模災害があった場合、消防署、消防団だけでは人手が足りなくなると思うので地域で研修などを行えば防災知識を持った地域の方が増えれば、いざという時に共助という意味で必要だと思いました。
- ・ どういう状況になったら避難をするか決め、避難場所、経路の確認を地域で周知、確認、訓練を定期的に行う。
- ・ 救助に行くようになった場合は、人手等に限りがありますので、とにかく避難するようにする。
- ・ 自主防災組織だと地区によって温度差が生じると思うので行政主体での地域防災研修や講座を兼ねた訓練を定期的に行うのが有効だと思います。もちろん、その地域にある福祉施設関係者の参加が必要です。
- ・ 近所との付き合いが無い中、防災訓練や話し合い等を数多く開催して仲間意識を高めることが大事になると思います
- ・ 組織や役職に係らず、個々が危機感を持つことが大切だと思う。

問9 今回の台風第19号を踏まえ、行政(国、県、市)に力を入れて取り組んでもらいたいことは何ですか?ご要望をご自由にお書きください。

要望

- ・ 市職員の消防団への入団、数年でも良いから消防活動を経験してもらいたい。
- ・ 避難勧告等が出た時に、手助けが必要な人が役所等に連絡して、そのお宅に消防団が出動できるようなシステム。
- ・ 詰所待機の命令があっても巡回くらいで具体的な活動ができない。避難者から応援要請があった方が動きやすい。
- ・ 今回の台風で思ったことは、共助の重要性だと思います。自主防災組織をすべての区で結成して頂くことで、避難所の開設に伴い、区でなく学校区で集まるといった場合組織の連携が必要ですので、自主防災組織の連携訓練などの実施が必要です。また、消防団は市民に広報や巡視、河川氾濫等に対応しなければならず、自主防災組織に入ることはできないということを各区の人に周知してもらいたい。

- ・ 水害が発生した場合、避難が済んでいれば家屋への被害はありあますが、取り残された人の救助等への負担が少なくなりますので、わかっていることならばとにかく避難をさせるような仕組みを徹底していただきたい。
 - ・ 今回の件がありましたので、市、地域、消防団等が集まっていろいろな話を出して会議等を重ね色々考えたいと思います。
 - ・ 緊急時、避難所の早期開設とその周知を早くした方が良いと思います。
 - ・ 消防団とすれば多くの消防団員を動かすため各方面団長と団長は消防本部に集合して、そこから各方面団への指示の方が全体地域の状況や緊急度が把握できて応援活動も含め有効的な活動ができると思います。
 - ・ 消防団員がどこまでするかも大まかに決めておいた方が良いと思います。
 - ・ 避難勧告の発令及び避難所開設のための職員を育成していただきたい。
- 地域住民への避難所の確認と備蓄の整備をお願いしたい。
- ・ 防災ラジオ等の普及、市内・町内の最新の情報の提供、危険区域を再検証し、地域に認識してもらう。
 - ・ 電柱に強靱化河川の土手の強度化等。水、電気等、浄水場の水没や電柱の強化等、やらなければならないことは山積みです。
 - ・ 本当に避難所は安全な場所なのか？
 - ・ 行政の各組織間の連絡、連携が取れていなかったような印象を受けるので、その辺の取り決めなど体制を整えていったら良いと思います。
 - ・ 氾濫が予想される箇所の整備。
 - ・ 大雨が予想される時の、ダムの事前放流、河川監視カメラの画質など向上。
 - ・ 早く避難所を開けてもらいたい。
 - ・ 危険場所リスト作成、避難勧告発令前からの消防団の具体的な活動マニュアルみたいなものがあると分団員に効率よく指示が出せると思う。
 - ・ 河川の氾濫や土砂災害が起こりにくい地域作り、自主防災意識の向上、消防団や地域との協力体制の強化。